

水の恩

「人の恩は返せても、水の恩は返せない。」
と言うことわざを、新聞の投書欄で見つけました。投稿者は七十九歳の方で、お母さんに聞いたという話でした。私の知らない古いことわざです。このことわざを聞いて、「ああ、確かにそうだなあ」と思いました。人が自分のために何かしてくれたとき、自分もその人の手助けをすることによって、その人への恩返しになります。
しかし、水に何かしてもらっても、私たちはなかなか恩返しができません。水は、私たちの生活に必要なことをいろいろしてくれています。

私は小学生のときに、川の水の行方を調べたことがあります。山の中で湧き出た水が、一番初めにしたことは、山の棚田でお米を育てることです。少ししかない湧き水を留めて

山添村立山添中学校 三年

中 暖子

田んぼを耕やし、次々と下の田んぼへ流して米作りをする工夫を、祖父に聞きました。毎年、田植えのころになると、祖父は、「水が留まらん。」
と困っています。でも、「きれいな湧き水で作る米が一番おいしい。」
と、祖父は自慢します。私が小さい頃は、横の川でサワガニやメダカをつかまえて遊んでいました。谷川を流れ落ちる水は、昔は水車を回し、仕事をしていました。
私は、毎日ダムの周りをバスで通学しています。冬の寒い日は、水面から霧が立ち上って、幻想的な景色です。夏は湖面に山の緑が映り、すがすがしい気分になります。ダム湖を見て、心を落ち着かせる人も多いと思います。

そのダムの水が水道水になつて、私たちの生活に使われていることは、言うまでもありません。また、灌漑用水として、田畑を潤し、作物を育てたり、再び浄水場で取り入れられて水道水になったり、繰り返し繰り返して何度も使われながら、下流へ流れていきます。水辺の景色をつくり、生き物を育てています。海へ行ったら、楽しいレジャーの場になります。海の生き物を育てて、魚を育てて、私たちの食料にもなります。水の恩は、深いです。でもそのありがたい水が、津波や川の氾濫を起すこと、ニュースに取り上げられて、大きく伝えられています。津波で何万もの命が奪われたことは悲しいことですが、同じ水が福島第一原子力発電所を冷やし、被害を抑えるために使われています。水が少しでも人間に被害をもたらしたら、大きな騒ぎになるのに、水が人間を助けてくれたときは、全然ありがたさを感じず、当たり前のようになくなってしまっているのではないのでしょうか。

昔の人は、今よりもっと不便な生活の中で、水を大切にし、水の力を上手く使っていたと思います。水にも恩を返してきたのでは

ないのでしょいか。水を敬っていたのではないのでしょうか。『水神』と刻まれた古い石碑が、ダム湖畔の公園に奉られています。ダムで水没した川辺にあったものを、移転したようです。村はずれの大きな井戸に、しめ縄がはつてあるのを見たとあります。私の家でも、お正月に井戸の神様にお供物をして、いることを思い出しました。

このように、水の神様を信じ、奉り敬うことは、現在にも続いています。昔から水が大切で、水に恩を感じていたからだと思えます。「水の恩は返せない」けど、私も毎日の暮らしの中で、水に恩を感じ、水を大切にすることをしたいと思えます。